

二〇一八（平成三〇）年度 研究所報告

1. 二〇一八（平成三〇）年度構成員

□東アジア学術総合研究所構成員

所長 牧角 悦子
 特命教授 加藤 國安
 特命教授 野村 芳正
 兼担所員 陽明学研究センター長 田中 正樹
 同 日本漢学研究センター長 町 泉寿郎
 （同） 文学部教授 田中 正樹
 同 文学部教授 江藤 茂博

□東アジア学術総合研究所運営委員会構成員

所長 牧角 悦子
 陽明学研究センター長 田中 正樹
 日本漢学研究センター長 町 泉寿郎
 文学部長・大学院文学研究科長 江藤 茂博
 国際政治経済学部長・大学院国際政治経済学研究科長 中山 政義
 文学研究科選出委員 松本健太郎
 国際政治経済学研究科選出委員 渡辺 和則
 文学部選出委員 五井 信
 国際政治経済学部選出委員 佐藤 一樹

□東アジア学術総合研究所企画・編集委員会構成員

所長 牧角 悦子
 兼担所員 陽明学研究センター長 田中 正樹
 同 日本漢学研究センター長 町 泉寿郎
 （同） 文学部教授 田中 正樹
 同 文学部教授 江藤 茂博
 文学研究科選出委員 松本健太郎
 国際政治経済学研究科選出委員 渡辺 和則
 文学部選出委員 五井 信
 国際政治経済学部選出委員 佐藤 一樹

□陽明学研究センター構成員

センター長 文学部教授 田中 正樹
 センター員 文学部特別招聘教授 市來津由彦
 同 文学部非常勤講師 中根 公雄
 研究協力員 東洋大学名誉教授 吉田 公平
 同 活水女子大学名誉教授 荒木龍太郎
 同 横浜国立大学准教授 小幡 敏行
 同 大東文化大学非常勤講師 久米 晋平
 助手 山路 裕

□日本漢学研究センター構成員

センター長 文学部教授 町 泉寿郎

センター員（文学芸術班）

同	文学部教授	磯 水絵
同	文学部教授	牧角 悦子
同	文学部教授	原 由来恵
同	文学部教授	五月女肇志
同	文学部教授	王 宝平
同	国際政治経済学部教授	佐藤 一樹
同（歴史思想班）	文学部教授	田中 正樹
同	文学部教授	小山 聡子
同	文学部教授	中川 桂
同	文学部教授	小方 伴子
同（漢学史班）	文学部教授	町 泉寿郎
研究協力員	公益財団法人東洋文庫	會谷 佳光
同	大東文化大学准教授	上地 宏一
同	文学部非常勤講師	清水 信子
同	文学部非常勤講師	川邊 雄大
助手（四月～二月）		鈴置 拓也
同（三月）		平崎 真右

2. 東アジア学術総合研究所運営委員会

第一回

日時	四月一九日（木）	一三時
場所	教授会会議室	
議題	① 平成三〇年度 特別事業費について ② 東アジア学術総合研究所 各センター長の選考について ③ 陽明学研究センター 助手の選考について ④ 日本漢学研究センター 助手の選考について ⑤ 東アジア学術総合研究所 構成員及び事業	

第二回

- 概要について
- ⑥ 陽明学研究センター 構成員及び事業概要について
- ⑦ 日本漢学研究センター 構成員及び事業概要について
- ⑧ 東アジア学術総合研究所 兼担所員（共同研究プロジェクト代表者）の公募について
- ⑨ 東アジア学術総合研究所 『東アジア学術総合研究所集刊』第四九集の原稿募集について
- ⑩ 日本漢学研究センター 『日本漢文学研究』第一四号の原稿募集について
- ⑪ その他

日時	五月一七日（木）	一三時
場所	教授会会議室	
議題	① 東アジア学術総合研究所 海外講座について ② 東アジア学術総合研究所 研究員の選考について ③ その他	

第三回

日時	六月一四日（木）	一二時三〇分
場所	六〇九演習室	
議題	① 東アジア学術総合研究所 兼担所員（共同研究プロジェクト研究代表者）の選考について ② 東アジア学術総合研究所 ケンブリッジ大学エマニエルカレッジ共催サマースクールへの講師派遣について	

第四回

日 時 九月二七日（木） 一二時三五分
場 所 教授会会議室
議 題

③ その他

- ① 東アジア学術総合研究所 共同研究プロジェクト・SRF共催「講演と研究」の開催について
② 東アジア学術総合研究所 国際政治経済学部共催公開シンポジウムの開催について
③ 東アジア学術総合研究所 『東アジア学術総合研究所集刊』第四九集について
④ その他

第五回

日 時 一〇月一七日（木） 一二時三五分
場 所 六〇二教室
議 題

- ① 東アジア学術総合研究所 二〇一九年度特別事業費申請について
② 東アジア学術総合研究所 共同研究プロジェクトシンポジウムの開催について（寧波大学・十一月四日）
③ 東アジア学術総合研究所 学術叢書刊行助成について
④ その他

第六回

日 時 一二月二〇日（木） 一二時
場 所 教授会会議室
議 題

- ① 東アジア学術総合研究所 共催シンポジウムの開催について（長崎・一二月二三日）

第七回

日 時 二月一四日（木） 一二時
場 所 教授会会議室
議 題

- ② 日本漢学研究センター 助手の交代について
③ 陽明学研究センター・日本漢学研究センター 二〇一九年度 助手の学内公募について
④ 東アジア学術総合研究所 『東アジア学術総合研究所集刊』第四九集について
⑤ 陽明学研究センター 『陽明学』第二九号について
⑥ 東アジア学術総合研究所 海外漢文講座について
⑦ 陽明学研究センター 海外研究者の招聘について
⑧ その他

- ① 東アジア学術総合研究所 研究員の選考について
② 陽明学研究センター 公開シンポジウムの開催について（本学・三月八日）
③ 東アジア学術総合研究所 共同研究プロジェクト公開シンポジウムの開催について（本学・三月一二日）
④ 東アジア学術総合研究所 『東アジア学術総合研究所集刊』第四九集について
⑤ 陽明学研究センター 『陽明学』第二九号について
⑥ 日本漢学研究センター 『日本漢学研究』第一四号について
⑦ その他

第八回

日時 三月一三日(水) 一一時
場所 教授会会議室
議題 ① 陽明学研究センター・日本漢学研究センター
二〇一九年度 助手の選考について
② その他

3. 陽明学研究センター運営連絡会

第一回

日時 六月二八日(木) 一五時三〇分
場所 六〇三教室
議題 ① 『陽明学』の投稿要領及び著作権の取り扱いについて
② その他

第二回

日時 一〇月五日(金) 一二時三〇分
場所 六〇三教室
議題 ① 平成三一年度特別事業費申請について
② シンポジウムについて
③ その他

第三回

日時 十一月十五日(木)
場所 八〇六教室
議題 ① 『陽明学』第二九号について
② シンポジウムについて
③ その他

4. 日本漢学研究センター運営連絡会

第一回

日時 四月一九日(木) 一二時三五分
場所 教授会会議室
議題 ① 構成員について
② 事業概要について
③ 『日本漢学研究』第一四号の原稿募集について
④ その他

第二回

日時 一〇月四日(木) 一七時〇五分
場所 六〇九教室
議題 ① 平成三一年度特別事業費申請について
② 『日本漢学研究』第一四号の編集について
③ その他

第三回

日時 二月七日(木) 一四時〇五分
場所 役員会議室
議題 ① 助手の交代について
② 平成三一年度 助手の学内公募について
③ 『日本漢学研究』第一四号の編集について
④ その他

5. 『日本漢学研究』編集委員会

第一回

日時 一〇月四日(木) 一四時

場所 六〇三教室
議題 ① 査読について
② 編集日程について
③ 経費について
④ その他

6. 海外講座の実施

共催 Graduate Summer School

会場	ケンブリッジ大学エマニユエルカレッジ
期間	八月六日(月)～一八日(土)
テーマ	江戸の書き言葉
内容	漢文脈と和文脈を統合した総合的なリテラシー教育
講師	和文・候文 ケンブリッジ大学 ラウラ・モレッティ 漢文訓読 二松學舎大学 山邊進 くずし字 書家 エアーズ由希子 書誌学 リーズ大学 エリス・ティニオス 和文・候文 三七・五時間 漢文訓読 二五・五時間 くずし字 九時間 書誌学 四時間
受講生	三〇名

海外漢文講座 ※動画配信による講義
対象 イタリア カ・フォスカリ大学
期間 平成三一年二月六日(水)～五月一五日(水)
講師 牧角悦子教授・町泉寿郎教授・清水信子講師・川邊雄大講師

コマ数 一五回

7. 日本漢学研究センター 公開講座の開講

演習講座

① 講座名 古文書解説講座

講師 文学部教授 町 泉寿郎

曜日等 火曜日 五時限

② 講座名 『古事談』の研究

講師 文学部教授 磯 水絵

曜日等 火曜日 三時限

③ 講座名 『国語』の研究

講師 文学部教授 小方 伴子

曜日等 月曜日 五時限

④ 講座名 漢文資料解説講座

講師 文学部教授 王 宝平

曜日等 金曜日 二時限

8. シンポジウムの開催

① 東アジア学術総合研究所・国際政治経済学部共催
公開シンポジウム

日時 一〇月二七日(土)

一三時三〇分～一七時三〇分

会場 九段キャンパス一号館二階二〇二教室
テーマ 「現代の政策を科学するⅢ」

開会挨拶 東アジア学術総合研究所長・文学部教授 牧角 悦子

趣旨説明 国際政治経済学部長 中山 政義

総合司会・進行 国際政治経済学部教授 渡辺 和則

基調講演 「市場と政策の双方向作用―長期とグローバル化の視座―」

東アジア学術総合研究所特命教授・千葉

大学名誉教授 野村 芳正

講演一 「グローバル企業による市場創造―オープン&クローズ戦略の脅威―」

国際政治経済学部准教授 小具 龍史

講演二 「社会の分断に関する経済シミュレーション―アメリカを想定して―」愛知大学経済

学部教授 田端 克至

講演三 「歴史と理論から見るトランプ外交」

国際政治経済学部准教授 手賀 裕輔

招待講演 「政権主導のエネルギー政策と原子力行政」

千葉大学名誉教授 新藤 宗幸

質疑応答 国際政治経済学部長 中山 政義

閉会挨拶

②陽明学研究センター主催公開シンポジウム

日時 三月八日(金) 一三時～一七時

会場 九段キャンパス一号館二階二〇一教室

テーマ 王龍溪研究の現在

開会挨拶 東アジア学術総合研究所所長・文学部教授 牧角 悦子

趣旨説明 陽明学研究センター長・文学部教授 田中 正樹

基調講演 浙江大学教授 彭 国翔

発表一 「王畿の思想における良知の規範性につ

いて」二松学舎大学大学院博士前期課程 山路 裕

発表二 「王畿『中鑑録』に関する一考察」早稲田大

学教授 永富 青地

発表三 「王畿哲学の可能性―「研究」と「学」の間で

―」東洋大学教授 小路口 聡

質疑応答 総合討論

コメント 活水女子大学名誉教授

荒木 龍太郎

閉会挨拶 陽明学研究センター長・文学部教授 田中 正樹

③東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト公開

シンポジウム

日時 三月二日(火) 一三時～一六時四〇分

会場 九段キャンパス一号館二階二〇一教室

テーマ 南宋の士大夫・洪邁の学術

開会挨拶 研究代表者・文学部教授 田中 正樹

趣旨説明 共同研究プロジェクト研究代表者・文学部

教授 田中 正樹

基調講演 「中国史研究者から見た洪邁と『夷堅志』」

日本大学教授 須江 隆

発表一 「洪邁と関帝信仰」研究分担者・文学部教

授 伊藤 晋太郎

発表二 「洪邁の学術―思想研究の観点から―」共

同研究プロジェクト研究代表者・文学部教

授 田中 正樹

質疑応答 総合討論

東アジア学術総合研究所所長・文学部教授 牧角 悦子

閉会挨拶

陽明学研究センター長・文学部教授 田中 正樹

基調講演 浙江大学教授 彭 国翔

発表一 「王畿の思想における良知の規範性につ

9. 講演会の開催

① 東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト・
SRF共催講演と研究

日 時 一〇月一日(月) 一六時三〇分～一九時
会 場 九段キャンパス一号館地下二階
中洲記念講堂

テ ー マ 日中文化交流―その底流と近代―「東アジ
アの文化を探るI」―

開会挨拶 研究分担者・文学部准教授 松本 健太郎

第一部 特別講演

司会・進行 東アジア学術総合研究所所長・文学部
教授 牧角 悦子

特別講演 「論語とわたし(たち)」 哲学者・評論家
札幌大学名誉教授 鷺田 小彌太

第二部 研究報告

司会・進行 研究分担者・文学部教授 王 宝平
研究報告一 「研究と実践から見た中日関係」 中国社
会科学院近代史研究所教授・駐日中華人
民共和国大使夫人・大使館友好交流部参
事官 汪 婉

研究報告二 「漢学者山本梅屋と中国知識人の交遊」
浙江工商大学東方語言文化学院教授
呂 順長

10. 東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト

共同研究①

研究代表者 文学部教授 田中 正樹
研究課題 中国古典学の再構築

研究期間 三年(本年度は二年目)
実施内容

まず、研究分担者の成果として、中国思想分野の
市来津田彦教授は、学術論文として「朱熹の跋文に
おける「感情」の表象」「单著」國學院中國學會報
六四(二〇一九年三月予定)、訳注として「『朱子
語類』卷九十五「程子之書二」訳注稿(二)」(「共
著」(東洋古典学研究四五)、一五七―一七九頁(市
来分担・一五八―一六八頁)、二〇一八年五月があ
る。研究発表は、「朱熹の跋文における「感情」の
表象」(招待講演・國學院大學中國學會第六一回大
会)(二〇一八年六月一六日)等を行った。

中国文学分野の牧角悦子教授は、論考として「『花
開』或是『花笑』―中日文化交流の一個側面」(『第
九届中日学者古代史論壇文集』中国社会科学院歴史
研究所・日本東方学会・黄河文明伝承與現代文明建
設河南省協同創新中心編、二〇一八年五月、七〇―
八八頁)、研究発表として「経学と文学―詩経研究を
例として」(第一〇回日中学者古代史論壇「学際化す
る中国学」、二〇一八年五月二〇日)等がある。

同じく中国文学分野の伊藤晋太郎教授は、ま
ず著書として『「関帝文獻」の研究』(汲古書院)
を二〇一八年九月に上梓、学術論文としては、
「二〇一七年日本『三国文化』研究論著目録」(『内
江師範学院学報』第三三卷第七期、二〇一八年
七月)、「『三国志演義』における呂蒙像について」
、『二松學舎大学人文論叢』第一〇一輯、二〇一八
年一〇月)を発表、また九月一五日開催の三国志学
会第一三回大会にて梁満倉先生講演の講師紹介、追
悼企画「沈伯俊先生の経歴と主要業績」を報告し
た。

中国古代史分野では小方伴子教授は、論文「汪遠孫『国語校注本三種』の成立過程―陳奐「国語校注本三種序」の訳注を基軸として―」を、『人文叢書』第一〇二輯にて掲載予定（二〇一九年三月）。

田中は、研究論文には「近代日本の漢学と民主主義―三島中洲の場合―」（東アジア学術総合研究所集刊、二〇一九年三月予定）があり、また研究発表としては、二〇一八年九月に韓国・慶北大学で開催された「大韓哲学会」に於いて「近代日本の漢学と人民」の演題で発表、また、二〇一八年一〇月にリール（仏）で開催された明治維新一五〇周年記念国際シンポジウム「レオン・ド・ロニーの時代と日欧間の知の交流―漢籍、軍制・法制の制度知を中心に」に於いて、「レオン・ド・ロニー蔵書の中国思想文献について」という演題で報告、ヨーロッパにおける中国古典学の受容の在り方の一端について考察した。

資料調査としては、田中及び大学院生山路裕が二〇一八年一二月に名古屋蓬左文庫を訪問、所蔵される漢籍の内、特に宋代・明代の文学・思想に関する資料を閲覧、複写を行った。

共同研究②

研究代表者 文学部教授 江藤 茂博

研究課題 東アジア都市文化における「コンテンツ」と「モノ」の流通をめぐる学際的

研究

研究期間 二年（本年度は一年目）

実施内容

共同プロジェクト「東アジア都市文化における「コンテンツ」と「モノ」の流通をめぐる学際的

研究」は、「文化研究に基盤」を置いた「小説、音楽、映画、アニメなどを包括的に指し示す概念としての「コンテンツ」を対象に、東アジア文化圏におけるその特性とは何かという問題」を解明するために、本年度は第一期として、『東アジア文化共同体の確認』、『東アジア文化共同体の現在』、『東アジア文化共同体の近代』、といった三つの基軸で展開した。なお、ここでは東アジア文化圏における儒学の影響を文化圏共通の枠として、「コンテンツ」の展開を研究の中心に設定する。

『東アジア文化共同体の確認』として、二〇一八年一〇月一日に東アジア学術総合研究所・SRF共催講演会として、本学で儒学文化と教育についての講演とシンポジウムを行った。哲学者鷲田小彌太氏、在日中国大使夫人汪婉氏を招き、日本人にとつての「論語」および儒学文化についてさまざまな立場からの分析が試みられた。

『東アジア文化共同体の現在』として、二〇一八年一月三日に松本健太郎准教授を責任者に寧波大学でシンポジウムを行った。中国の若者たちにおける日本のゲーム文化の受容のあり様を検証することを大きなテーマとしたのである。松本は、日本の事例として「外国人からみた日本型コミュニケーションを再考する ― ラーメンズの『日本の形』を事例に―」を報告。「現代の日本人は、いかにして外国人のまなざしを内面化し、それを自己像の構築へと結びつけようとしているのか―」このような問題を考察するにあたって、お笑いコンビのラーメンズによる『日本の形』は興味深い題材を提起していると、いう。本発表では、日本語／日本文化の外国人向け紹介ビデオの「パロ

ディグとして企画されたそのコンテンツをとりあげながら、ポストモダンの状況における日本型コミュニティションの現在（とくに「文化の島宇宙化」として議論される文化的傾向性）を分析の組上に載せ」た。

『東アジア文化共同体の近代』として、二〇一八年一月二三日に江藤茂博を責任者に長崎歴史文化博物館でシンポジウムを行った。幕末明治期の長崎を事例に、東アジアでの文化の共同性を検証したのであった。中国から長崎に移ってきた人たちの文化交流、長崎市出身の梅屋庄吉の東アジアでの活動について、メディア論、日中文化交流史、映画史などの視座から報告と検証が行われた。映画と言うビジネスが、商業性を手にする場合に、必ず他者の欲望を仮想することは必至である。

以上、今回確認した近代から現代まで、日本文化は儒学思想の影響が大きかった。その日本文化が持つ外国文化のまなざしを内面化する異文化受容の基本的なスタイルに、大きな変化は無かったかもしれない。最初に本プロジェクトが提議した、一八世紀から現在に至るまで、文化の生成・接触・衝突・変容・融合をつうじて形成された東アジアにおける都市文化の組成を把握するために、まず東アジアの儒学文化の共有現象を確認することを、ここでは試みたものである。その結果、日本及び東アジアの文化現象にみられる他者のまなざしの内面化という問題が、儒学思想とどのように関係にあるのかを次の年度の検証課題としたい。

11. 学術叢書の刊行助成

①書名等	『幽霊の歴史文化学』（平成三十一年二月二十八日発行）
著作権代表者	思文閣出版
文学部教授	文学部教授 小山 聡子
文学部准教授	文学部准教授 松本健太郎